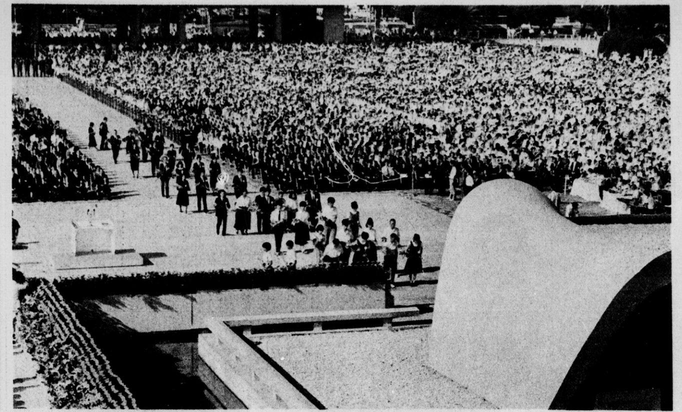
中國新聞
発行所 広島市中区土橋町7番1号 郵便番号730
中國新聞社
© 中國新聞社 1986



被爆41周年 平和祈念式

核兵器廃絶 世界の世論

荒木市長 平和宣言

米ソ首脳「広島会談」を

被爆者援護の確立も要求

広島で米ソ首脳会談を開け—広島市の荒木市長は六日、平和記念公園で開いた被爆四十一周年の原爆死没者慰霊式・平和祈念式で、高らかに呼び掛けた。平和宣言の中に、被爆地広島での両核超大国の首脳会談開催を盛り込んだのは初めて。実現の可能性は目下薄いが、これを機に粘り強く訴え掛けていく責務を広島は負う。同時に荒木市長は、国家補償の理念に立った被爆者援護対策の確立を国に引き続き求めた。「核実験の永久停止」とともに、両悲願の達成は被爆半世紀の五十周年へ向けての広島の最大の課題となる。（夕刊一部既報）【2・3・18・19面に関連記事、4面に写真グラフ】

平和宣言の中で荒木市長は「核兵器廃絶と平和を願うヒロシマの声は世界の世論である」と強調。「人類生存の命運を握る米ソ両国は、世界最初の被爆地広島で首脳会談を開催し、核軍縮への具体的な方策を明示すべきだ」と呼び掛けた。

平和宣言は、英文で海外百三十都市以上に送る「世界アピール」である。荒木市長は、広島での米ソ首脳会談実現の橋渡しを国連事務総長と日本政府に求めているが、平和宣言の中ではっきり提唱した以上、広島市と市民は、そのための具体的な方策を探り、実現へ一定の役割を果たさなければならない。

その方策の一つは、平和宣言にもうたっている通り、都市と都市、市民と市民が国境を超えて輪を広げる都市連帯を、市民を大きく巻き込んで一層強力に進めることであろう。

被爆四十周年のメーン・イベントとして広島市は昨年、第一回の世界平和連帯都市市長会議の開催にこぎつけた。しかし一年たった今、賛同する都市は三十四カ国の百三十六都市にとどまっている。国境を超えた都市の連帯は結局、市民の連帯となってヒロシマを広め、それが核保有国へ包囲網を張りめぐらす道につながる。都市連帯の広がりが、両核超大国にとってプレッシャーになることは間違いない。

被爆者の援護は平和運動の高まりと不可分だ。五十二年から続いた原水禁統一世界大会は今年、市民団体、原水禁国民会議（総評・社会党系）、原水協（共産党系）の三つに分裂し、独自の集会が広島でそれぞれ開かれた。いわば、大組織に頼ってきた運動の崩壊である。平和運動が市民一人一人の生活と結びついたものでなければ本当の力にならないことを、一層明確にした。

広島で初めて開かれた市民団体の市民平和大集会で、核廃絶を願う被爆者の素朴な訴えは大きな共感を得た。被爆者自身とその体験が、平和運動の最大の推進力であることが改めて確認された。

一方、六日に広島市が開いたノーベル賞受賞者らによる「平和サミット」は、世界の平和にとって飢餓、難民、人権抑圧の問題も深刻に受けとめられなければならない」と警告した。核軍拡競争と、これらの諸問題は深くかかわっている、との指摘である。

核廃絶—平和へのアプローチは多様で、より多面的な時代に入った。しかし、どのような方策を選ぶにせよ、その原点に「ノーモア・ヒロシマズ」があることは、今回の「平和サミット」でも改めて確認された。ヒロシマの果たす役割はますます大きくなってくる。

安らかに

鎮魂と核廃絶への願いを込めた市民代表の献花の列。広島の祈りは続く（広島市平和記念公園の平和祈念式）

"平和宣言の心"全世界に

平和サミット ヒロシマ・アピールを発表

ツツ主教ら 人類生存へ行動強調

国際平和年に被爆四十一周年を迎えた広島市で六日、世界平和確立の道を探る「'86平和サミットinヒロシマ」（広島市主催）が開かれた。ノーベル賞受賞者三人を含む内外の科学者ら十二人がシンポジウムなどを通じて討論。核兵器廃絶と平和を願うヒロシマの心を全世界の人びとが深く受けとめるよう訴えるヒロシマ・アピールを発表した。

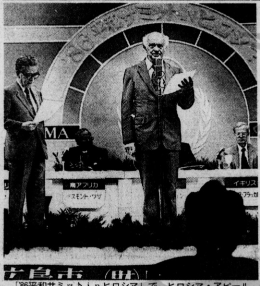
会場の広島市中区加古町、広島厚生年金会館には、平和祈念式に参列した各国の市民を含む約千四百人が出席。あいさつに立った荒木広島市長は「核の脅威が高まっている今こそ、ヒロシマの悲劇を思い起こしていただきたい」と呼び掛けた。

続いてノーベル賞受賞者の米国のライナス・ポーリング氏（八五）、英国のドロシー・ホッジキン氏（七六）、南アフリカのデズモンド・ツツ主教（五四）の三人が基調講演した。ポーリング氏は「政治指導者の小さなミスが人類の滅亡につながる時代」と、今日の危機的な核状況を指摘。これを受けてホッジキン氏は「世界の各国は完全で包括的な軍縮を目指して進み続けなければならない」と主張、南アの人種隔離政策撤廃運動の指導者であるツツ主教は「人類が生き残るためには、すべての人が正義と平和に対し激しい情熱を持つべきだ」と訴えた。

午後からは「平和のための科学のあり方」と「世界恒久平和機構の必要条件」の二つのテーマ別にシンポジウムを開いた。いずれも国連大学学長特別顧問の永井道雄氏をコーディネーターに、基調講演を行った三人をはじめ、「核の冬」の研究で知られる西ドイツのパウル・クルッツェン氏（五三）、国連事務次長の明石康氏（五五）ら十人のパネリストが討論した。

この中で、明治学院大の豊田利幸教授は「核兵器の開発研究は非人道的だ」と警告。ストックホルム国際平和研究所のフランク・ブラッカビー所長（六四）は「軍事研究に携わることを拒否する科学者のリストを作り、その輪を広げよう」と提案した。

討論を踏まえ、参加者はヒロシマ・アピールを起草。ポーリング氏が代表して読み上げた。アピールは、「われわれは被爆地ヒロシマにつどい、被爆の実相をつぶさに見聞した」とし、荒木市長が、この日の平和祈念式で訴えた平和宣言の心を「全世界の人びとが心に深く受けとめるよう」求めている。



「'86平和サミットinヒロシマ」で、ヒロシマ・アピールを読み上げるポーリング氏、左端は永井道雄国連大学学長特別顧問（広島厚生年金会館）

ヒロシマ・アピール（全文）

国際平和年にあたる八月六日、われわれは被爆地ヒロシマに相集い、四十一年前のこの日、広島が一発の原子爆弾により一瞬にして壊滅し、多数の貴い人命を失ったばかりか、今なお多くの被爆者が後遺症に苦悩するなどの被害の実相をつぶさに見聞した。

今や世界の核保有状況は、広島の原爆の百万倍にも達するといわれ、核軍拡競争が続くなかで、ひとたび核戦争が起これば人類を消滅させてしまうこの現実を思うとき、平和宣言の心を全世界の人びとが、心に深く受けとめるよう求めるものである。

一九八六年八月六日、広島

'86平和サミットinヒロシマ

「援護法」に否定的

現行2法 拡充 実態調査の結果待ち

厚相会見

被爆者援護法に否定的な見解を示した斎藤厚相（広島全日空ホテルの記者会見）

斎藤厚相は六日、広島市の平和祈念式に首相代理として参列したあと、中区の広島全日空ホテルで記者会見し、広島・長崎両県市や被爆者団体が求めている被爆者援護法制定について「現行二法（原爆医療法、被爆者特別措置法）は広い意味での国家補償の精神に立っており、そのうえに援護法を制定するのは問題がある」と否定的な見解を示した。

斎藤厚相の援護法否定は、一般戦災者との均衡がとれない—との従来の政府の考えを踏襲したもの。現行二法の拡充については「年に四千人以上の被爆者が亡くなり、高齢化も進んでいる」とし、「昨年実施した実態調査を来年三月までに集計し、その分析結果を踏まえて検討したい」と述べたにとどまった。

また韓国政府が在韓被爆者の渡日治療を十一月末で打ち切る問題については、「人道的見地に基づく措置なので渡日治療が継続できるよう、十一月まで折衝を進めたい」とし、日本政府としては継続の意思があることを表明した。

日韓外相定期協議 来月上旬開催 日程を調整へ

外務省は第一回の日韓外相定期協議を九月上旬、開催する方向で韓国側と日程調整に入る。外務省首脳が六日明らかにしたもので、第三次中曽根内閣で外相に就任した倉成外相と李源京外相が初めて顔を合わせ、二国間関係を中心に意見交換することになる。

ゴ書記長の訪日準備中

ソ連外務次官言明 「会談内容を検討」

【モスクワ六日大熊特派員】ソ連のカピッツァ外務次官は六日、モスクワで行われた記者会見でゴルバチョフ書記長の訪日について、ソ連側が準備を進めていることを明らかにし「その訪問における会談の内容などについて検討中である」と述べた。

この日の会見はゴルバチョフ書記長のアジア・太平洋地域安保構想について行われ、同次官は同地域の諸国との関係強化について個別に見解を表明した。このうち同書記長の訪日準備は対日関係の中で述べられたもので「対日関係は最近きわめて順調であり"暖かい風"が吹いている。外相の相互訪問も有益だった。トップレベルの相互訪問も検討中」と、ソ連側の指導者（日本）訪問準備が進められていることに言及した。

ゴルバチョフ書記長

しかし同書記長の訪日時期については「まだ決定していない。また（ゴルバチョフ書記長と中曽根首相の）どちらが先に訪問するかも明らかではない」と、場合によっては中曽根首相の受け入れが先になる可能性も示唆した。

また、北方領土問題など、主張が対立する点が存在することを認めながらも「立場の違いがあっても両国関係の発展を妨げるものではない」と語った。

核実験の凍結 ソ連再延長か 数日中に発表へ

【モスクワ六日共同】カピッツァ・ソ連外務次官は六日の記者会見で、ソ連が一年間続けてきた一方的な核実験停止が六日で期限切れになる点に触れ、延長するかどうかの発表は数日中に行われることを明らかにした。

カピッツァ次官は、多くの外国政府や政治家が延長を要請してきており、延長問題を決める際には、これらの要請を考慮すると述べ、さらに延長することを示唆した。

天風録

ラジウムの入った瓶をポケットに入れ、おなかに大やけどした研究者。全身に放射線を浴び、血液がんで死亡した化学者・キュリー夫人。放射能との付き合いは今世紀の初めから失敗の連続だった▲原爆の製造と投下、相次ぐ核実験、死者まで出したチェルノブイリなどの原発事故。米ソの核競争は五万発（広島型原爆の百万発分）を超す核兵器を積み上げる。人類は核の脅威のお化けを抑えきれないほど肥大させた▲お化けを再び瓶の中に封じ込めるにはどうしたらよいか—8・6の広島市で展開された各種イベントの狙いは、この一点に集まった。「'86平和サミットinヒロシマ」で南アフリカのツツ主教は「核の脅威から一人ひとりが解放されよう」と熱っぽく訴えた▲被爆者の"語り部"活動にも、若者たちが群がった。「建物に押しつぶされた人を火が襲う生き地獄を見た」「顔や手足にケロイドが残り、病気と生涯闘う体になった」「放射能はこわい。生活を破壊する戦争は二度としないで」—この日「証言のつどい」で聞いた被爆者の声▲語り部たちは「被爆のむごさを訴えるだけではだめ。苦しみの中をどう生きてきたか、生き方を語ることが感動を呼ぶ」と言う。そして、高齢者の多い被爆者の活力を支えているのは、若者や子供たちの真剣な反応だという▲今、語り部の証言は静かに聞き入る若者たちに「確実に受け止められている」と実感する。その種が一人ひとりの胸に根を下ろし、大きく芽吹いてほしい。ノーベル賞受賞者の訴えも胸を打つが、被爆者の証言はそれ以上の迫力をもつ。証言活動が今後に希望を託せる営みに育ってきたからだ。

きょうの紙面

〈20ページ〉
資産家老人を監禁、920万円強奪（19面）
社党・総評「国鉄」で柔軟姿勢（2面）
貧打の広島、あえなく4連敗（12面）
南ア、近隣2国に追加制裁措置（3面）
松江工高の河村、サーブルV（13面）
住銀が米投資銀行に資本参加（7面）
中国孤児養父母に扶養費送金（18面）

英国に生まれて二八〇年。トワイニングの歴史は、高級紅茶の歴史です。
TWININGS
片岡物産

ミセス 九月号発売！ 9
ファッション特集 輝くひと、三〇歳 本物の服、豊かな着こなし
東京コレクション 洗練された野性の文様
東京 特集 ミセスが見つけた小さな旅
絵絣 華心
秋の夜長はお気に入りのナイティで
浦野理一
料理 残暑のクイック中国料理
しまいにくいものの収納法 リビング特集
残された人生はメリー・ウィドウの気分で
今、カードの時代
プランターでできる野菜作り
ミセスのスタイルブック 秋 特集 私がすすめるフォーマルウェア 付録 実物大婦人原型
毎日の暮しを美しく—が編集部の願いです。

真理さんの作るお料理ってどんな味？好奇心いっぱいのメニュー拝見！
真理のお料理タイム ちょっとおいしい話
芳村真理
（好評既刊）真理の紅茶タイム ちょっとおしゃべり、おしゃれな話

筑紫哲也のヒーロー対談集
ハロー・グッドバイ Hello Good-bye
小林克也 川崎徹 関川夏央 鴻上尚史 戸田ツトム 長谷川和彦

旅は道づれ 雪月花 高峰秀子 松山善三
すぐする すぐすむ 快速家事 原田知津子
チョットおばあちゃんおしえて 毎日新聞社会部編

文化出版局
〒151 東京都渋谷区代々木3-22-1
TEL 03(370)3111(大代表)